

経営部門

宮崎県串間市

田中明跡

優良牛の自家保有と作業の一部外部委託で大規模繁殖経営を実現



田中さんご夫妻

平成 11 年度全国肉用牛経営発表会最優秀賞（農林大臣賞）

（主催：社団法人全国肉用牛協会）

第 39 回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞

（主催：日本農林漁業振興会）

田中さんは昭和 53 年に高校卒業と同時に就農し、平成 4 年頃経営主となり、現在 46 歳、繁殖牛一筋に経験 26 年のベテランである。就農時は 10 頭、後継者となって 37 頭であった繁殖母牛をその後徐々に拡大して現在 114 頭を飼育する県下でも有数の多頭繁殖専門経営を営んでいる。

田中さんの経営の特色を挙げてみよう。

①優良雌牛を自家保有して拡大し、現在ほぼ 100%が自家産牛となっている。

②分娩間隔は毎年 12 ヶ月台で推移し、16 年は 12.2 ヶ月で、ほぼ 1 年 1 産を実現している。

③子牛の資質は高く、優良雌牛を自家保有しても雌、去勢ともに市場平均価格より高く販売しており、16 年は去勢で 481 千円で市場平均より 12 千円高かった。

④粗飼料は、自作地、借地での自給生産の他、粗飼料生産グループからの買入れ、堆肥と稲わらの交換、輸入粗飼料等、多様なルートを確認している。

⑤作業効率を上げるために、分娩舎、哺乳牛舎、子牛育成舎、妊牛舎等に区分し、牛をローテーションするように、構造を工夫すると同時に、牛の移動を考えた配置にしている。

⑥哺乳中の母牛は 3 頭ずつの群飼とし、発情発見を容易にすると同時に子牛は別飼施設を設け、少数群で個体の以上を発見しやすくしている等、省力化と個体管理の面から創意工夫が見られる。

⑦地域の牛飼いの仲間 9 人で作っている串間牛研究会の活動も田中さんの経営を支える大きな力になっている。定期的に成績を検討し、研鑽すると同時に成績得点によって会長を選ぶなど、ユニークな運営を特色にしている。

以上の他に、田中さんは規模拡大の過程で、外部の組織と連携を強め、作業の一部を委託する方向を取るようになった。その一つは粗飼料の生産を地元ヘルパー（コントラクター）に任せ、また別の粗飼料生産グループからロールを購入し、自身では粗飼料生産を行わないことである。また受胎の確認された妊牛を、これも他のグループに飼育を委託し、労働の軽減を図っている。

田中さんは経営の問題点として、頭数増加と子牛価格の上昇により所得の総額は増加したが、1頭当たりコストがやや高くなった事を認め、しかし今後はさらに頭数を増加するのではなく、もっと母牛の資質を高めてさらによい子牛の生産に務めるという質的改善に力を入れたいと語っている。



▲子付き母牛は3頭単位で飼育

哺乳中の母牛は発情確認が容易にできるように3頭で群飼し、繁殖成績の向上につなげている。子牛だけが通れる通路を設けてある。



▲粗飼料確保の外部受託組織を活用

粗飼料確保にはあらゆる努力を怠っていない。頭数が増加するにつれ、自作地の飼料作作業を全面的に外部に委託するほか、粗飼料生産グループからも購入、稲ワラ集めしている。

▼子牛は別飼育施設へ

左の別飼房の子牛。3頭単位の少頭数なので異常の発見がしやすい。



▼ふん糞尿は完璧

借地を含め4ha強の飼料圃と稲ワラとの交換で堆肥はフルに活用し、公害とは無縁。



